

雑記抄

驚き・桃の木・山椒の木

故事・俗信などの諺を集めた大字典・辞書・物語などでは、「これは驚いた、びつくりした」ということの洒落言葉が「おどろき」のきの語呂合わせであるという。

一円：驚きである。誰も拾わないのである。見て見ぬ振り、知っていて知らない風、正に知らん顔なのであるから本当にがつかりしながら、「あつ、一円」と言いながら拾って帰って蛇口をひねって洗って乾かして小銭大に仕舞って落ち着くのである。

スーパーで、コンビニで、そしてバス停で、将又バスの中で一円が寂しそくに、ポツンと独りぼつちの一円が落ちていても踏んづけても拾わないのであるから驚きである。

「一銭を笑う者は一銭に泣く」というのは「一円を笑う者は一円に泣く」と現在に直結するが、小雨の夕暮れに一円玉が鈍く光っていた道草館の前で「たかが一円、

されど一円。。」と。

十八歳：英国の与党、労働党は十月四日ようやく下院議員の立候補資格を得る十八歳の女子高校生エミリー・ペンさんを次期総選挙立候補者に抜てきしたとの

新聞報道は「桃の木」であった。エミリーさんは四代にわたる国会議員を輩出する政治家の家系に生まれたいわばエリートであるが、日本と違って「地盤の継承」は無いけれども、履歴書を送って選考され、候補者の座を勝ち取ったというから驚きである。

出馬の地区は過去三回も保守党に大差で敗れた労働党が、「正に新進気鋭の若きホープ」の十八歳を出馬させるのだから、これこそ

「労働党のエース・キーマン・広告塔」で、選挙権・被選挙権を二十一歳から十八歳に引き下げた英国ならではの快挙ともいうべきことであろうか。

同じ記事の中で今年五月の地方選では、すでに十八歳の男子高校生が地方議員に当選したとのこと。ベテラン議員も高枕とはいかない英国の政情を物語っているようでもある。「若者・余所者・旅の者をターゲットにした町づくりこそ、本物の町づくり」と説いた木村尚三郎東大名学教授（一九九二年現在）によるまでもなく、若人の政治的な関心・関与そして関知がベースとなることは確かである。

ところで、「桃栗三年、柿八年」というのは、芽生えてから実を結ぶまでに、桃と栗は三年、柿は八年かかるということであり、何事にも時期が来なくてはならないし、どんなものにもそれ相応の年数があるものだというのだが、英国

の選挙はどうであろうか。五百二十万円：北京五輪（二〇〇八年：平20）の開会式A席一枚が約五百二十万円（定価七万六千円の約六十八倍強）とは「山椒の木」である。

この新聞の報によれば、開会式は二万六千枚の販売数に約五十万枚の応募という正にプラチナペーパーであり、最高額の開会式A席五千元（約七万六千元）に対して最低額は野球B席などの三十元（約四百六十元）だから、これは雲泥の差・月とスッポンである。

因みに、「山椒は小粒でもぴりりと辛い」といわれ、姿形は小さくても気性が強く、能力も高くてもあなどりがたいし、劣つたり負けたりはしないということの意味するが、一枚の紙が「白金」の価値を持つというのだから、中国富裕層拡大の表れかとも。：ともあれ、びつくり仰天・青天の霹靂（激しい雷鳴）・驚天動地にでくわすようなことの無い町の風の吹き回しや如何？であろうか。

前中央分館長

尾池隆男